
幼心の君へ

紫月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼心の君へ

【Zマーク】

Z0019C

【作者名】

紫月

【あらすじ】

親友が突然事故、以前より抱いていた恋心を打ち明けるが…

俺が傍にいるから。だからアイシの事なんか思い出さなくていい。（前書き）

この小説はボーイズラブです。キス等の表現があります18禁ではありません

俺が傍にいるから。だからアイツの事なんか思い出さなくていい。

「泣くなよれい」

「しゃひつけやんねばあひやんお星をまになつちやた・・・

幼心の君

「終また月曜な」

「おう！またな零」

そうやつてお前はアイツと帰つて行くんだな今日は土曜日だからまたアイツの家泊まるんだろう？そして、抱かれるのか？俺は大富柊也高校3年俺には大切な幼なじみがいる、大好きな親友高村零でも俺は親友つて思うより好きなんだお前の事。

でもこの気持ちは俺だけの秘密、なぜなら俺もお前も男だから。

「零、帰ろ」

「奏次郎！」

そんな顔して笑うなよアイツの前で、何でだよ・・・

俺から零を奪つていつたヤツ、男同士なのにそんな事気にせずあつさり俺から零を奪つたヤツ、木戸奏次郎俺の腹違おなかがいいの兄弟・・・その日家に帰るのも面倒で本屋で立ち読みしてたら三島からの携帯で俺の頭が真っ白になつた。

「零が事故！？」

ふざけんなよ！なんで零が事故なんか！

病院に行けばもう零のおばさんは来ていた
幸い零の怪我は大した事はなかつた、でもアイツは、
庇い意識不明の重体だつた・・・
奏次郎は零を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0019c/>

幼心の君へ

2010年11月3日14時25分発行